

## II 河川等水質調査

### 1 河川の概要

#### (1) 水質汚濁にかかる環境基準

水質汚濁にかかる環境基準は、公害対策基本法にもとづき、昭和45年の閣議決定によって設定されました。さらに、近年の産業の多様化に対応できるよう、平成5年3月に環境基本法による「人の健康の保護に関する環境基準」が改正され、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等水質汚濁にかかる人の健康の保護に関する環境基準の15項目が追加されました。さらに平成11年にはふっ素、ほう素、硝酸性窒素および亜硝酸性窒素の3項目、平成21年には1,4-ジオキサンが追加されて現在に至っています。基準値について平成21年に1,1-ジクロロエチレン、平成23年にカドミウム、平成26年にトリクロロエチレンが改正され、下記の表のとおりとなっています。

人の健康の保護に関する環境基準

(単位：mg/L)

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム (Cd)	0.003 以下	1,1,1-トリクロロエタン	1 以下
全シアン (CN)	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 以下
鉛 (Pb)	0.01 以下	1,1-ジクロロエチレン	0.1 以下
六価クロム (Cr <sup>6+</sup> )	0.05 以下	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 以下
ひ素 (As)	0.01 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002 以下
総水銀 (T-Hg)	0.0005 以下	チウラム	0.006 以下
アルキル水銀 (R-Hg)	検出されないこと	シマジン	0.003 以下
PCB (ポリ塩化ビフェニル)	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 以下
トリクロロエチレン	0.01 以下	ベンゼン	0.01 以下
テトラクロロエチレン	0.01 以下	セレン	0.01 以下
四塩化炭素	0.002 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 以下
ジクロロメタン	0.02 以下	ふっ素	0.8 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004 以下	ほう素	1 以下
1,4-ジオキサン	0.05 以下		

生活環境の保全に関する環境基準

項目 類型	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌群数 (MPN/100mL)
AA	6.5~8.5	1 以下	25 以下	7.5 以上	50 以下
A		2 以下			1,000 以下
B		3 以下		5,000 以下	
C	6.0~8.5	5 以下	50 以下	5 以上	—
D		8 以下	100 以下		
E		10 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと		

市内の公共用水域の類型指定と達成期間

指 定 水 域	水域類型	達成期間	指 定 年 月 日
多摩川上流(1) (和田橋より上流)	A A	イ	平成10年 6月 1日 環境庁告示第27号
多摩川上流(2) (和田橋から拝島橋まで)	A	ハ	昭和45年 9月 1日 閣議決定
成木川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号
黒沢川、霞川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号

(達成期間)

イ … ただちに達成                      ロ … 5年以内で可及的速やかに達成

ハ … 5年を超える期間で可及的速やかに達成

主な有害物質について

カドミウム (C d)	顔料、光学ガラス製造工場などで使用されている。人体への影響としては、肺気腫、腎障害、肝障害をもたらし、また歯ぐきに黄色の着色を示したり、きゅう覚を失うような場合がある。
シアン (C N)	電気メッキ工場、熱処理工場などで使用されている。人体への影響は、数秒ないし数分程度で中毒症状が現われ、頭痛、めまい、意識障害、けいれん等を起こし、死亡することもある。
鉛 (P b)	顔料製造業、印刷工場などで使用されている。大量の鉛が体内に入ると急性中毒を起こし、腹痛、おう吐、下痢、尿閉などが現われ、激しい胃腸炎とその結果起こるショックのため死亡することもある。
六価クロム (C r <sup>6+</sup> )	電気メッキ業、顔料製造業などで使用されているほか、冷却水の腐食抑制剤としても使われている。人体への影響としては、鼻炎、咽頭炎、鼻中隔穿孔、臓器障害などがあげられる。
ひ素 (A s)	金属精錬、殺虫駆虫剤、染料、ガラス製造に使われている。体内に蓄積されやすく、おう吐、下痢、腹痛、肝炎の原因となり、接触すると皮膚炎や皮膚がんになる恐れがある。
全水銀 (T-H g)	有機水銀化合物、無機水銀化合物、金属水銀、水銀イオンなどすべての形態の水銀の総量で、乾電池、無機薬品、計量器、合成触媒などに用いられる。大量に摂取すると、歯ぐきが腐り、血便が出る。
アルキル水銀 (R-H g)	農薬等に以前使用されており、疲労感、記憶力の減退、指・手足のマヒ、運動失調、視聴覚の障害を招く。
P C B (ポリ塩化ビフェニル)	絶縁性が高いなど電気的特性に優れ、かつ、熱、酸、アルカリなどに非常に強いため、絶縁油、熱媒体やノーカーボン紙溶剤などに広く用いられたが、昭和47年に生産が中止されている。人体影響としては、多様な皮膚障害、内臓諸器の障害、ホルモンのバランスのくずれ、末梢神経の伝達速度の遅延等がある。
窒素・リン (N・P)	ボイラーの清缶剤、酸洗い排水、肥料工場、食品工場の廃水に多く含まれている。また、有リン合成洗剤、し尿、生活排水、生ごみ等に多く含まれており、東京湾のような閉鎖性水域の富栄養化の原因となる。

## 水の汚れを見分けるモノサシ

p H (水素イオン濃度)	液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す数値。p H 7 が中性。それよりも数値が大きければアルカリ性、小さければ酸性で、河川では通常 p H 6 ～ 8 の間にあることが望ましい。
B O D (生物化学的酸素要求量)	微生物が、水中の有機物を二酸化炭素や水などに分解するため必要とする酸素の量。河川の汚濁の度合いを示す代表的なもので、この数値が大きいほど川は汚れていることになり、5 mg/L以下が望ましい。
S S (浮遊物質)	水中に浮いている不溶性の物質。川底にたまってヘドロになったり、魚介類に悪影響を及ぼす。河川では、通常 10 mg/L以下であることが望ましい。
D O (溶存酸素)	水中に溶けている酸素の量。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、多くの魚介類は生存できない。5 mg/L以上であることが望ましいとされている。
C O D (化学的酸素要求量)	水中の有機物を、過マンガン酸カリウムなどの酸化剤を使って、二酸化炭素や水などを分解するために必要な酸素量。海面域や湖沼の汚染の度合いを示す代表的なもので、値が大きいほど汚れていることになり、5 mg/L以下が望ましい。
M B A S (陰イオン界面活性剤)	主に合成洗剤に含まれる陰イオン界面活性剤がメチレンブルーと反応して生ずる錯体を抽出したもの。化学合成によって製造されるため分解されにくく、河川水中に含まれると発泡現象や生物体に影響を与える。
大腸菌群数	グラム陰性、孢子を作らず、乳糖を分解してガスを発生するすべての好気性および通性嫌気性桿菌を総称して大腸菌群という。これらの菌は人畜の糞尿等に広く分布し、これらの細菌が水から検出されることは、その水が人畜の糞便によって汚染されていることを示す。

### (2) 河川の汚染状況

青梅市では、市内の公共用水域の水質状況の把握と河川の環境保全のため、毎年定期的に河川の水質調査を行うとともに、水質汚濁防止と監視のため、工場や事業所から公共用水域に排出される排出水の調査も行っています。また、有害物質等の蓄積を監視するため底質調査も行っています。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の河川水質調査、排出水の調査、底質調査を中止しました。)

本市の河川の水質は、生活排水に起因する生活項目の1つである生物化学的酸素要求量(以下「BOD」という。)について、環境基準を達成していました。

### (3) 主要河川の調査結果の概要

#### ア 多摩川

BODについて、本流2地点(御岳橋・多摩川橋)を前年と比較してみると、御岳橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。また、多摩川橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.8 mg/Lでした。

環境基準については、御岳橋AA類型BOD 1 mg/L以下、多摩川橋A

類型BOD 2 mg/L以下で、両地点ともに達成していました。



御岳橋



多摩川橋

#### イ 成木川

BODについて、本流2地点(北小曾木川合流後・両郡橋[東京都調査])を前年と比較してみると、北小曾木川合流後では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.8 mg/Lでした。また、両郡橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。



北小曾木川合流後



両郡橋

#### ウ 黒沢川

BODについて、本流2地点(峯向橋・落合橋[東京都調査])を前年と比較してみると、峯向橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。また、落合橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。



峯向橋



落合橋

## エ 霞川

BODについて、本流2地点（城前橋・金子橋[東京都調査]）を前年度と比較してみると、城前橋では年平均値が前年度0.9 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。また、金子橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.6 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、共に達成していました。



城前橋



金子橋

### ※ 市内地下水調査

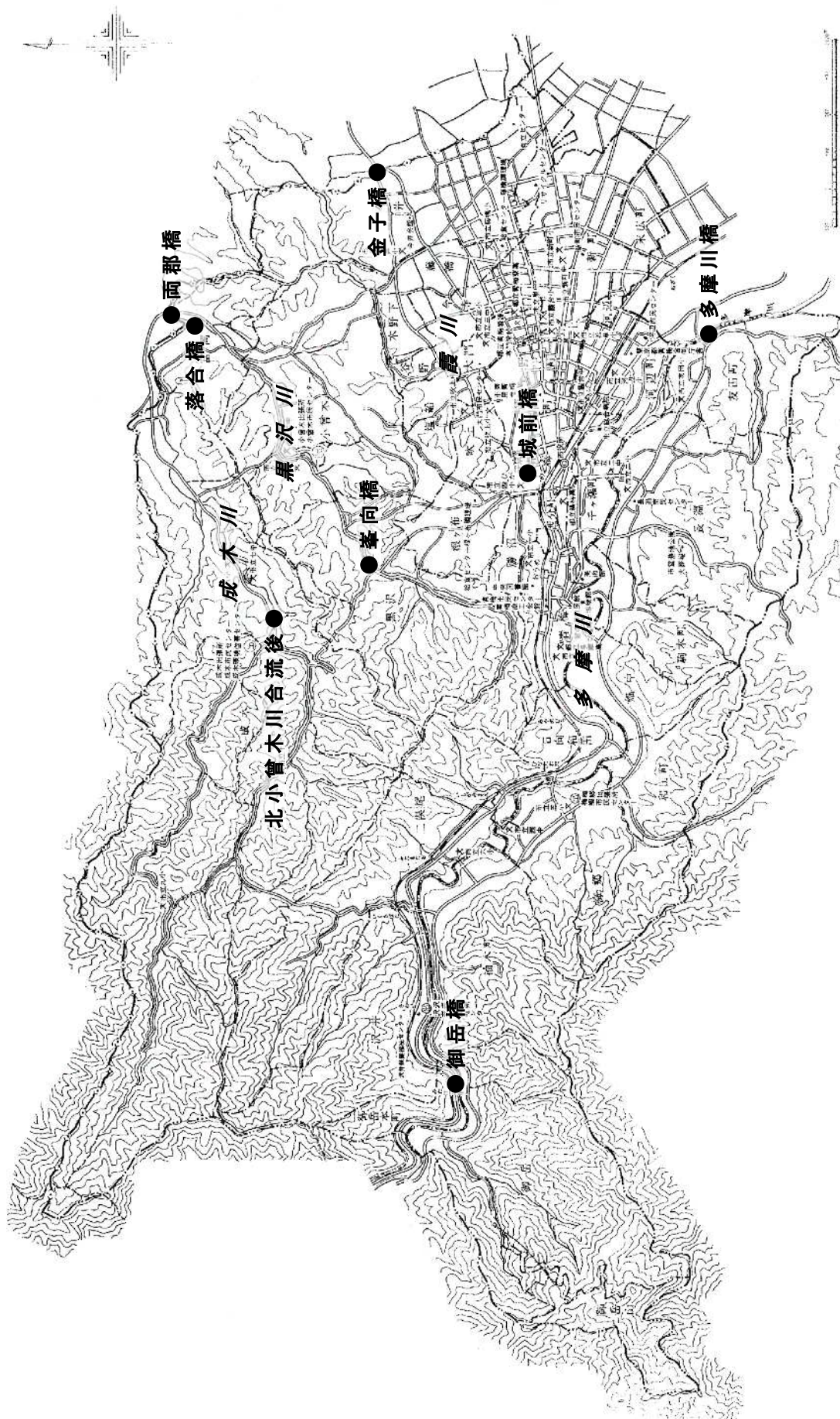
環境調査のため、例年、3か所の井戸から年1回地下水を採水し、調査していますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

### ※ 事業所水質調査

水質汚濁防止と監視のため、例年、工場や事業所から公共用水域に排出される排水を調査していますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。



河川水質調査地図



## 2 調査結果（年平均）

河川区分(類型)		多摩川本流(AA)			多摩川本流(A)			多摩川支流(なし)			
調査地点		御岳橋	神代橋	万年橋	下奥多摩橋	多摩川橋	平溝川	平溝川上流	町屋川	釜の淵排水口	田端川
現場測定項目	採取位置	右岸				流心					
	採取水深	表層				表層					
	気温 (°C)	15.0				18.9					
	水温 (°C)	9.2				14.7					
	透視(明)度 (cm)	>50				>50					
生活環境項目	pH	7.2				7.8					
	DO (mg/L)	11.2				10.9					
	BOD (mg/L)	0.5				0.8					
	COD (mg/L)					1.2					
	SS (mg/L)	2				3					
	大腸菌群数 (MPN/100mL)					410					
	全窒素 (mg/L)					0.78					
	全りん (mg/L)					0.025					
	健康項目	カドミウム (mg/L)					<0.0003				
	健康項目	全シアン (mg/L)					<0.1				
健康項目	鉛 (mg/L)					<0.002					
健康項目	六価クロム (mg/L)					<0.01					
健康項目	ひ素 (mg/L)			未実施		<0.005			未実施		
健康項目	全水銀 (mg/L)					<0.0005					
健康項目	アルキル水銀 (mg/L)					<0.0005					
健康項目	PCB (mg/L)					<0.0005					
健康項目	1,4-ジオキサン (mg/L)					<0.005					
その他の項目	全クロム (mg/L)										
	MBAS (mg/L)					<0.02					
	アンモニウム性窒素 (mg/L)					0.03					
	りん酸性りん (mg/L)					0.012					
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)					0.59					
	ふっ素 (mg/L)					0.02					
	ほう素 (mg/L)					0.01					
	亜鉛 (mg/L)					<0.001					
	ノニルフェノール (mg/L)					<0.00006					
	LAS (mg/L)					0.0017					
	追加15項目						不検出				

※追加15項目：ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン

河川区分(類型)		多摩川支流(なし)						成木川本流(A)		
調査地点		清見川	清見川上流	霞台放流渠	鷲巣川	四谷川	大荷田川	山神橋	梅ヶ平	北小曾木川合流前
現場測定項目	採取位置	流心			流心		流心			
	採取水深	表層			表層		表層			
	気温 (°C)	19.3			18.3		17.6			
	水温 (°C)	16.5			15.9		16.6			
	透視(明)度 (cm)	>50			>50		>50			
生活環境項目	pH	7.6			7.8		7.5			
	DO (mg/L)	9.3			9.6		9.4			
	BOD (mg/L)	1.0			0.6		1.0			
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)	<1			1		1			
	大腸菌群数 (MPN/100mL)	790			4600		3833			
	全窒素 (mg/L)			未実施		未実施				未実施
	全りん (mg/L)									
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003			<0.0003		<0.0003		
	健康項目	全シアン (mg/L)	<0.01			<0.01		<0.01		
健康項目	鉛 (mg/L)	<0.001			<0.001		<0.001			
健康項目	ひ素 (mg/L)	<0.001			<0.001		<0.001			
健康項目	全水銀 (mg/L)	<0.0005			<0.0005		<0.0005			
その他の項目	全クロム (mg/L)	<0.01			<0.01		<0.01			
	MBAS (mg/L)									
	アンモニニア性窒素 (mg/L)	0.02			0.01		0.01			
	りん酸性りん (mg/L)	0.025			0.022		0.039			

河川区分(類型)		成木川本流 (A)			成木川支流 (なし)		黒沢川本流 (A)				
調査地点		北小曾木川合流後	直竹川合流前	黒沢川合流前	北小曾木川	二本竹川	大熊神社前	峯向橋	鉄平橋	第六中学校前	
現場測定項目	採取位置	流心	未実施				未実施		流心	未実施	
	採取水深	表層							表層		
	気温 (°C)	14.6							17.8		
	水温 (°C)	12.1							12.8		
	透視(明)度 (cm)	>50							>50		
生活環境項目	pH	7.7							7.7		
	DO (mg/L)	10.5							10.3		
	BOD (mg/L)	0.8							0.5		
	COD (mg/L)										
	SS (mg/L)	<1							<1		
健康項目	大腸菌群数 (MPN/100mL)										
	全窒素 (mg/L)										
	全りん (mg/L)										
	カドミウム (mg/L)										
	全シアン (mg/L)										
その他の項目	鉛 (mg/L)										
	ひ素 (mg/L)										
	全水銀 (mg/L)										
	全クロム (mg/L)										
	MBAS (mg/L)										
アンモニア性窒素 (mg/L)											
りん酸性りん (mg/L)											

河川区分(類型)		黒沢川支流 (なし)			霞川本流(A)	霞川支流 (なし)			
調査地点		黒沢1丁目地内水路	日原沢	小布市川	城前橋	勝沼小曾木	根ヶ布川	矢端川	
現場測定項目	採取位置	未実施				未実施		流心	
	採取水深							表層	
	気温 (°C)							18.2	17.0
	水温 (°C)							15.0	15.8
	透視(明)度 (cm)							>50	>50
生活環境項目	pH							7.7	7.4
	DO (mg/L)							10.2	9.8
	BOD (mg/L)							0.5	0.5
	COD (mg/L)								
	SS (mg/L)							<1	<1
健康項目	大腸菌群数 (MPN/100mL)								
	全窒素 (mg/L)								
	全りん (mg/L)								
	カドミウム (mg/L)								
	全シアン (mg/L)								
その他の項目	鉛 (mg/L)								
	ひ素 (mg/L)								
	全水銀 (mg/L)								
	全クロム (mg/L)								
	MBAS (mg/L)								
アンモニア性窒素 (mg/L)									
りん酸性りん (mg/L)									

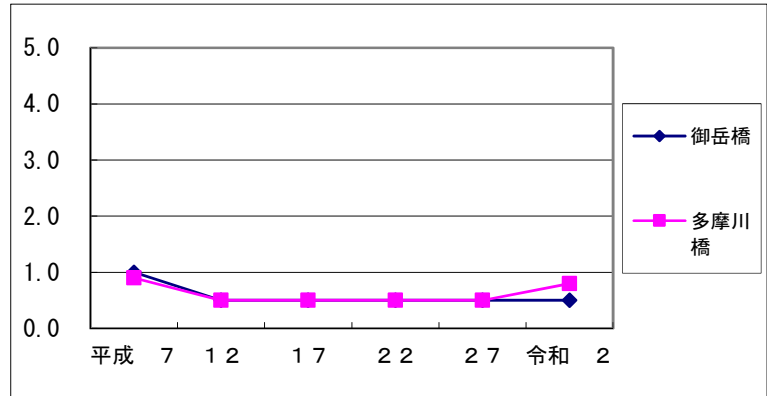


### 3 BOD経年変化（数値は年平均値）

#### ○ 多摩川

（単位：mg/L）

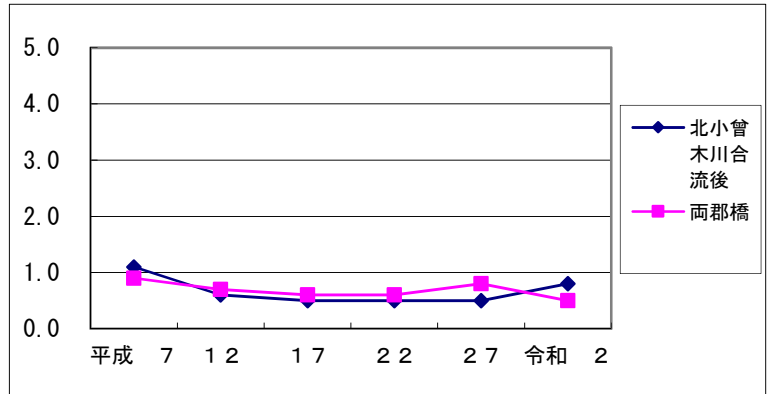
年度	御岳橋	多摩川橋
平成 7	1.0	0.9
12	0.5	0.5
17	0.5	0.5
22	0.5	0.5
27	0.5	0.5
令和 2	0.5	0.8
現在の環境基準	1 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 成木川

（単位：mg/L）

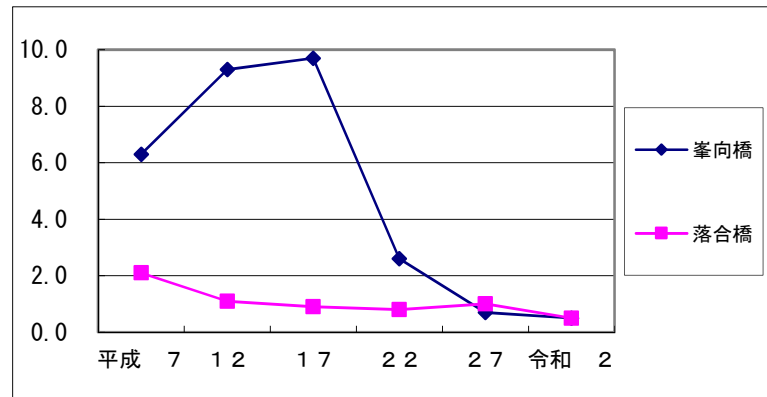
年度	北小曾木川合流後	両郡橋
平成 7	1.1	0.9
12	0.6	0.7
17	0.5	0.6
22	0.5	0.6
27	0.5	0.8
令和 2	0.8	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 黒沢川

（単位：mg/L）

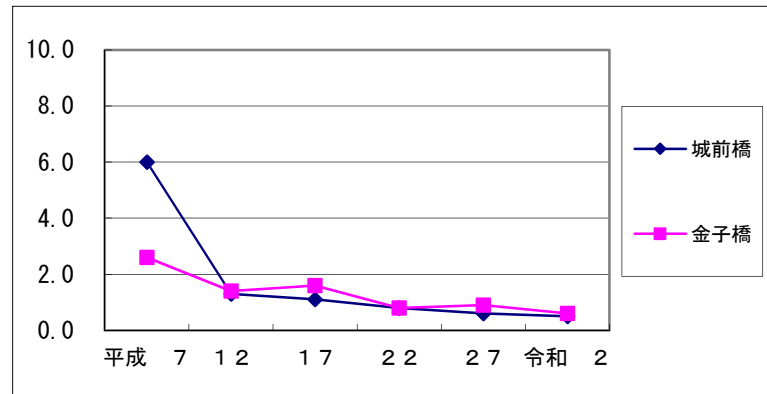
年度	峯向橋	落合橋
平成 7	6.3	2.1
12	9.3	1.1
17	9.7	0.9
22	2.6	0.8
27	0.7	1.0
令和 2	0.5	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 霞川

（単位：mg/L）

年度	城前橋	金子橋
平成 7	6.0	2.6
12	1.3	1.4
17	1.1	1.6
22	0.8	0.8
27	0.6	0.9
令和 2	0.5	0.6
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### 4 藻類・底生生物調査結果

調査目的：アユの餌となる付着藻類の現状把握のため、年3回、市内の多摩川の3か所において調査を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回の実施としました。また、併せて年1回実施予定であった底生生物および川石の付着物の定性分析の調査については、中止としました。

経年変化の確認のため、10年間の分析資料から底生生物、付着藻類について出現種を分類学的に集計し水質判定を行ったところ、年間変動に規則性は見られず、付着藻類や水生昆虫、魚類などの生物量が多く、アユも生息するきれいな水域であるとの結果でした。

調査日：令和2年4月28日

調査地点：市内多摩川3か所（市民球技場、和田橋、楓橋）

- 調査項目：(1) 乾燥重量（採取した検体を乾燥させて計測したもの）  
 (2) 強熱減量（採取した検体をガスバーナーで加熱して、無くなった値＝藻類などの有機物量）  
 (3) 灰分率（無機物の割合）  
 (4) クロロフィル a（水中の植物プランクトンの量）  
 (5) 付着藻類同定調査

##### (1) 灰分等調査結果

調査地点、調査項目		調査日
		4月28日
市民球技場	乾燥重量 (mg)	36.3
	強熱減量 (wt%)	19.3
	灰分 (wt%)	80.7
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	6.4
和田橋	乾燥重量 (mg)	19.0
	強熱減量 (wt%)	30.8
	灰分 (wt%)	69.2
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	4.4
楓橋	乾燥重量 (mg)	8.0
	強熱減量 (wt%)	40.6
	灰分 (wt%)	59.4
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	1.8

## (2) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和2年4月28日)

## ア 出現種一覧

単位: 細胞数/mm<sup>2</sup>

No.	類	種名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学名	和名			
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ヒ <sup>レ</sup> ロウト <sup>ラ</sup> ソウ		147	432
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤコレ		13	
3		<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボ <sup>ウ</sup> ソウ		32	955
4	黄金色藻類	<i>Hydrurus foetidus</i>	ミズ <sup>オ</sup>			216
5	珪藻類	<i>Melosira varians</i>	チャツ <sup>ツ</sup> ケイウ	38	51	
6		<i>Diatoma mesodon</i>	イ <sup>ケ</sup> ケイウ	10	6	10
7		<i>Diatoma vulgare</i>	イ <sup>ケ</sup> ケイウ	10	6	19
8		<i>Fragilaria capitellata</i>	オ <sup>ヒ</sup> ケイウ	106	26	
9		<i>Fragilaria capucina</i>	オ <sup>ヒ</sup> ケイウ		19	
10		<i>Fragilaria rumpens</i>	オ <sup>ヒ</sup> ケイウ	19		
11		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オ <sup>ヒ</sup> ケイウ	125	77	5
12		<i>Fragilaria</i> sp.	オ <sup>ヒ</sup> ケイウ	38	45	43
13		<i>Hannaea arcus</i> var. <i>recta</i>	ハラ <sup>ケ</sup> ケイウ	58	339	158
14		<i>Ulnaria acus</i>	ハラ <sup>ケ</sup> ケイウ	317	211	264
15		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハラ <sup>ケ</sup> ケイウ	19	6	5
16		<i>Ulnaria ulna</i>	ハラ <sup>ケ</sup> ケイウ	96	96	29
17		<i>Cymbella affinis</i>	クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ		6	
18		<i>Cymbella janischii</i>	クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ	38	77	10
19		<i>Cymbella tumida</i>	クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ			5
20		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ		13	5
21		<i>Encyonema minutum</i>	ハラ <sup>ミ</sup> クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ	384	224	58
22		<i>Encyonema prostratum</i>	ハラ <sup>ミ</sup> クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ	10		
23		<i>Encyonema silesiacum</i>	ハラ <sup>ミ</sup> クチ <sup>ビ</sup> ル <sup>ケ</sup> ケイウ	3,485	1,536	763
24		<i>Gomphoneis minuta</i>	クサ <sup>ビ</sup> フ <sup>ネ</sup> ケイウ		6	5
25		<i>Navicula cari</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ		6	10
26		<i>Navicula cryptocephala</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ			10
27		<i>Navicula cryptotenella</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	29	19	10
28		<i>Navicula decussis</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ		13	
29		<i>Navicula gregaria</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	58	13	
30		<i>Navicula nipponica</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	10		
31		<i>Navicula phyllepta</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	240	109	72
32		<i>Navicula slesvicensis</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	10		
33		<i>Navicula subalpina</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ		6	10
34		<i>Navicula tripunctata</i>	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	163	166	62
35		<i>Navicula</i> sp.	フ <sup>ネ</sup> ケイウ	19		
36		<i>Reimeria sinuata</i>	カイ <sup>コ</sup> マ <sup>ケ</sup> ケイウ	10		19
37		<i>Achnantheidium convergens</i>	ツ <sup>メ</sup> リ <sup>カ</sup> ケイウ			10
38		<i>Achnantheidium minutissimum</i>	ツ <sup>メ</sup> リ <sup>カ</sup> ケイウ			29
39		<i>Achnantheidium pyrenaicum</i>	ツ <sup>メ</sup> リ <sup>カ</sup> ケイウ	96	179	322
40		<i>Cocconeis pediculus</i>	コ <sup>バ</sup> ン <sup>ケ</sup> ケイウ	19	13	5
41		<i>Cocconeis placentula</i>	コ <sup>バ</sup> ン <sup>ケ</sup> ケイウ	10	13	38
42		<i>Planothidium lanceolatum</i>	フ <sup>ト</sup> ス <sup>ジ</sup> ツ <sup>メ</sup> リ <sup>カ</sup> ケイウ		77	19

No.	類	種 名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学 名	和 名			
				2020年4月28日		
43	緑藻類	<i>Nitzschia dissipata</i>	サハケイソウ	48	314	206
44		<i>Nitzschia fonticola</i>	サハケイソウ		64	24
45		<i>Nitzschia frustulum</i>	サハケイソウ	29	32	
46		<i>Nitzschia inconspicua</i>	サハケイソウ	19		34
47		<i>Nitzschia linearis</i>	サハケイソウ	19	13	10
48		<i>Nitzschia perminuta</i>	サハケイソウ	77	115	10
49		<i>Surirella bifrons</i>	オハバンケイソウ	10		
50		<i>Ulothrix zonata</i>	ヒビミヅ	19	256	29
51	<i>Oedogonium</i> sp.	サヤミヅ	29			

※:糸状体数、他は細胞数

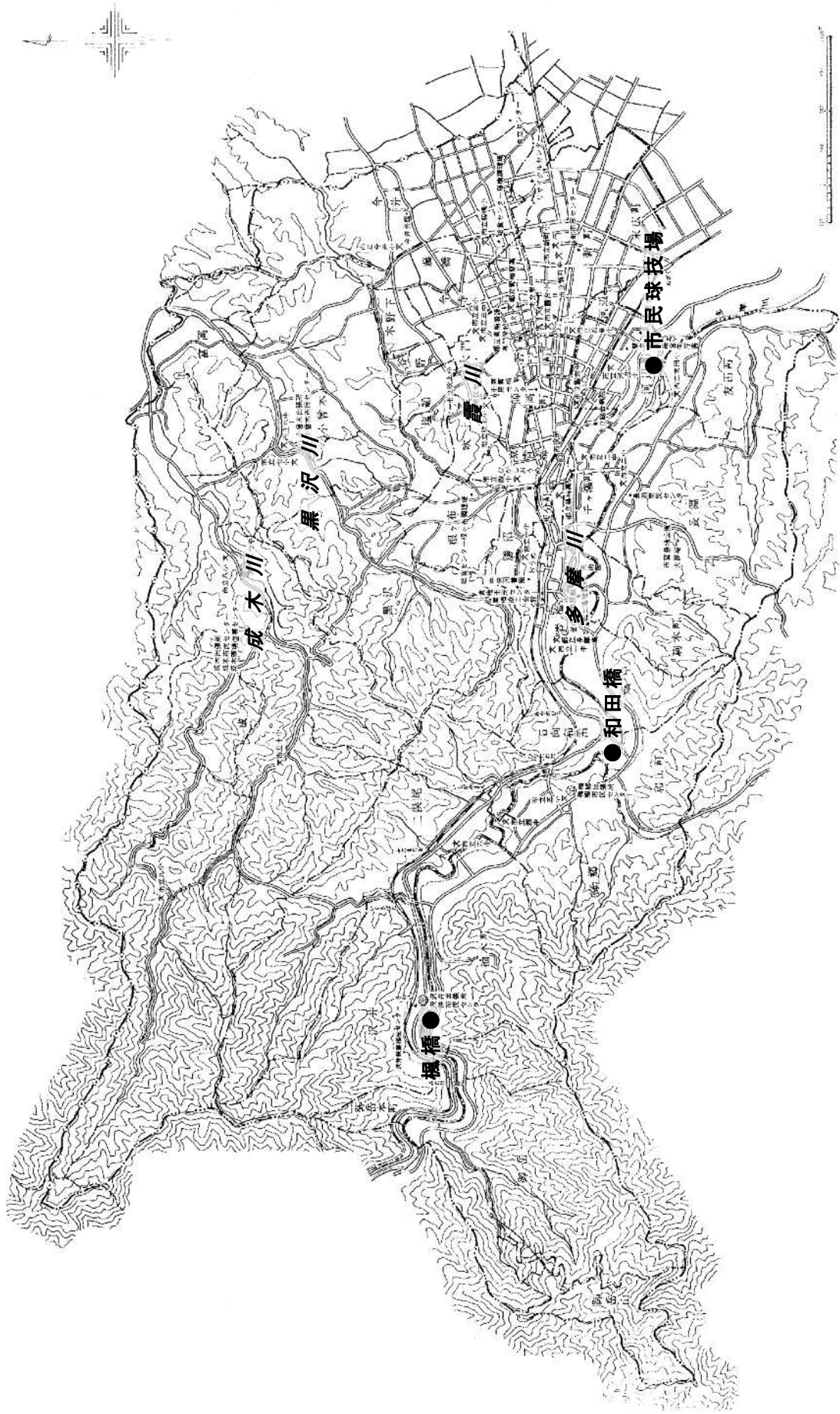
#### イ 出現種の分類学的集計結果

分 類	調査地点	市民球技場	和田橋	楓 橋
藍藻類 Cyanophyceae		0種	3種	2種
渦鞭毛藻類 Dinophyceae		0種	0種	0種
黄金色藻類 Chrysophyceae		0種	0種	1種
珪藻類 Bacillaroophyceae		32種	33種	32種
緑藻類 Chlorophyceae		2種	1種	1種
種数合計		34種	37種	36種
細胞数合計 (1 mm <sup>2</sup> あたり)		5667	4344	3911

#### ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓 橋
優占種 (優占度%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (61.5%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (35.4%)	<i>Chamaesiphon minutus</i> コンボウランソウ (24.4%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Encyonema minutum</i> ハラミクチビルケイソウ (6.8%)	<i>Hannaea arcus</i> var. <i>recta</i> ハラケイソウ (7.8%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (19.5%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Ulnaria acus</i> ハリケイソウ (5.6%)	<i>Nitzschia dissipata</i> ササノハケイソウ (7.2%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (11.0%)

藻類・底生生物調査地図



5 ダイオキシン類調査結果（東京都調査）

1 河川

(1) 水質

調査地点	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均
	多摩川(和田橋)				0.055	0.048	0.052				0.063	0.063	0.063				0.062	0.062
成木川(両郡橋)				0.057	0.057	0.057				0.063	0.063	0.063				0.063	0.063	0.063
黒沢川(落合橋)	0.068	0.069	0.069				0.083	0.074	0.079				0.068	0.066	0.067			
霞川(金子橋)				0.09	0.055	0.073				0.071	0.070	0.071				0.091	0.072	0.082

※環境基準：1pg-TEQ/L以下 平成22年度から成木川（両群橋）における調査は年1回となった。

(2) 底質

調査地点	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			
	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	
多摩川(和田橋)				0.21						0.21									0.21
成木川(両郡橋)				0.24						0.60									0.28
黒沢川(落合橋)	0.37									0.61						0.64			
霞川(金子橋)				1.0									0.98						1.10

※環境基準：150pg-TEQ/g以下

2 土壌

調査地点	調査年度	測定結果	
		pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
大門3丁目	平成13年度	120	
長淵6丁目	平成13年度	52	
河辺町8丁目	平成15年度	17	
沢井2丁目	平成15年度	0.26	
成木4丁目	平成15年度	32	
河辺小学校	平成20年度	0.18	
天ヶ瀬町	平成25年度	1.6	
柚木町1丁目	平成27年度	6.5	
河辺町1丁目	令和2年度	4.2	

※環境基準：1,000pg-TEQ/g以下

平成12, 14, 16～19, 21～24, 26, 28～令和元年度は青梅市内調査なし

3 地下水

調査地点	調査年度	測定結果	
		pg-TEQ/L	pg-TEQ/L
御岳2丁目	平成12年度	0.069	
沢井2丁目	平成12年度	0.073	
黒沢3丁目	平成12年度	0.072	
木野下2丁目	平成12年度	0.076	
御岳1丁目	平成13年度	0.062	
柚木町2丁目	平成13年度	0.055	
根ヶ布1丁目	平成13年度	0.055	
今井1丁目	平成13年度	0.056	
長淵2丁目	平成13年度	0.055	
富岡3丁目	平成15年度	0.065	
長淵8丁目	平成15年度	0.065	
今寺1丁目	令和元年度	0.038	

※環境基準：1pg-TEQ/L以下

平成14, 16～23, 25～30年度, 令和2年度は青梅市内調査なし